奥多摩、川苔谷、逆川

2010/7/3

L 白土、後藤、安藤、斉藤（記）

昨年、悪天中止で、行きそびれた逆川。翌日、御岳で予定されている渡渉トレの前日入りという事での山行だ。梅雨の最中という事もあって渡渉トレの前日にして水流との戦いとなった。
7/3　朝、前夜泊地の御岳から日原街道の川苔橋まで車で移動する。途中多摩川本流や日原川を見下ろすとかなり増水している様子だ。ここのところ局地的な大雨が何度も通過した為だろう。川苔橋から30分程川苔林道を歩いた後、逆川出合へと下降点を下りる。湿度が高いせいもあり、出合に着いた時には汗だくになっていた。
7:15　足ごしらえを整え、遡行を開始する。やはり水量はかなり多いようだ。小滝を難なくこなし、遡行すると40分程で最初の難関である2段10mの滝に到着する。通常、下段3mは右から取り付くと考えられるが、水流が幅いっぱいまで広がりとても取り付けない。左はじからチャレンジするとなんとか登れた為、一段登ったところでロープを垂らし、その先はビレイしてもらう。上段7mは傾斜はないが、水流には入れず、左の側壁を上り、リッジの裏へと回り込み、上部で左岸に渡りビレイする。少し水を浴びたせいで、ビレイ中は少し寒い。その後もテンポ良く小滝が現れ空きさせない。ゴルジュ帯が始まると釜も連続してくる。どの釜も小さいわりに深い。増水のせいもあると思うが、ナメてかかると足の着かない所が以外と多い。泳ぎの好きな白土さんは果敢に水に飛び込むが、私を含む他3人はそれを横目に巻く事が多かった。時折見かけるワサビ田跡に、古の人の暮らしに思いを馳せる。そんなところも奥多摩の谷の魅力の一つだと思う。ルート中、核心のウスバ林道下の10m滝に着き、暫し、休憩を取る。パンをかじりながら滝を眺めるが、滝の幅いっぱいに広がる水流に、登る事を泣く泣く諦める事とする。ウスバ林道を越え、いくつか小滝を越えると二股が現れ、左俣を選ぶ。
12:12 本日最後の楽しみとなる25m滝のたもとに着く。傾斜はないが、高さがあるので気が抜けない。ホールドも豊富で楽しそうだ。白土さんのリードで無事、突破する。ラストで私が登る。皆、右の凹角にルートをとっていたが、ビレイ点を左にとっていた為、最後のランナーを回収後、止む無く左に大きくトラバースせざるをえなくなってしまった。その際、気を失うほど、頭から水をかぶってしまった。登り終えるとすぐ左の尾根に乗り、
13:10　下降を開始する。尾根を少し下り、右手に沢が見えたら、沢へと下り、その沢を少し下ると、再び逆川に戻り、すぐウスバ林道へと出られる。ウスバ林道をウスバ乗越まで行ったらウスバ尾根を下降する。ウスバ尾根は良く踏まれ、明確で歩きやすい。迷うことなく、川苔林道へと出る事が出来た。
15:40 2時間半の下降で川苔橋に着く。
今回の逆川は初級者から上級者まで誰でも楽しめる沢だと思う。奥多摩の一本として自信を持って薦められる沢であった。